

ステロイド外用薬の代表的な副作用とその対処法

監修：近畿大学医学部 皮膚科学教室 主任教授 大塚 篤司 先生

● 毛細血管が拡張する

ステロイド外用薬が作用して、毛細血管の収縮があります。しかし、長期連用をするとこの作用は低減し、ステロイド外用薬の効果が切れている間は毛細血管が拡張したままとなります。主治医の指示に従ってください。



● 皮膚が赤くなる

顔は腕に比べて外用薬の吸収率が15倍高いことが知られています。そのため、顔に強めのステロイド外用薬を長期に外用すると皮膚が薄くなり、皮膚の下の部分にある血管が見えるようになります。その結果、皮膚が赤く見えるようになります。主治医の指示に従ってください。



● 皮膚がやや薄くなる

ステロイド外用薬を長期間塗り続けると皮膚が薄くなります。症状に合わせて塗る回数を調整することが重要です。主治医の指示に従ってください。

● 紫色の斑点ができる

ステロイド外用薬の長期使用により、毛細血管を保護する回りの組織がもろくなり、皮膚が少し圧迫されただけで毛細血管が破れ内出血を起こすことがあります。主治医の指示に従ってください。



● にきびが悪化する

ステロイド外用薬は免疫の機能を広く抑えアトピー性皮膚炎に効果を発揮します。しかし、その作用は細菌に対してはネガティブに働きます。例えばにきびの悪化です。にきびのある部分にはステロイド外用薬を塗らないようにしましょう。



● 薬を塗った部分に毛が生える

ステロイドが本来持つホルモンの作用により、薬を塗った部分に毛が生えることがあります。主治医の指示に従ってください。

● かぶれ

ステロイド外用薬はかぶれにも使われる薬ですが、極まれにかぶれを起こすことがあります。医師の指示通りに外用しても湿疹が良ならず、ますます悪化するような場合はステロイド外用薬によるかぶれの可能性も考えられます。主治医に相談してください。